脳学子屋NEWS

2021.8.1

（お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい）

「日本の資本主義の父」と言われた渋沢栄一

～「論語と算盤」で駆け抜けた 91 年 ～

2024 年、1 万円札の肖像が**福沢諭吉**から**渋沢栄一**に変わるのはご存知でしょうか。

NHK の大河ドラマでも取り上げられた彼は、明治時代に近代国家を建設するうえで大きな働きをし、「**日本の資本主義の父**」と呼ばれるようになりました。

彼は生涯に約 500 もの会社の設立に関わり、それらの多くは現在でも誰もが知っている大企業となっています。代表的なものでいえば、

第一国立銀行（**現みずほ銀行**）、日本鉄道（**現 JR 東日本**）、東京海上保険会社（**現東京海上日動**）、田園都市株式会社（**現東急電鉄、東急不動産**）、東京瓦斯会社（**現東京ガス**）、東京株式取引所（**現東京証券取引所**）、大阪紡績株式会社（**現東洋紡**）抄紙会社（**現王子製紙、日本製紙**）、共同運輸会社（**現日本郵船**）、汽車製造（**現川崎重工**）、東京商法会議所（**現日本商工会議所**）、**日本女子大学**、**帝国ホテル**・・・etc。

この功績を見ると、まさに**今の日本の土台を作った**と言っても過言ではないほどです。
そんな彼は何を考え、何を目指し、ここまでのことを成し遂げてきたのでしょうか。

農家の息子から、日本の資本主義の父へ

渋沢栄一は天保 11 年 2 月 13 日（1840 年 3 月 16 日）、現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。

家業の畑作、藍玉の製造･販売、養蚕を手伝い**商売**を学んだ一方、幼い頃から父に学問の手解きを受け、従兄弟の尾高惇忠（後の富岡製糸場の初代場長）から本格的に「**論語**」などを学びます。

24 歳で郷里を離れた渋沢は一橋慶喜（徳川慶喜）に仕えることになり、一橋家の家政の改善などに実力を発揮し、次第に認められていきます。

27 歳の時、15 代将軍となった徳川慶喜の実弟・徳川昭武に随行し、パリの万国博覧会を見学するほか欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。

明治維新となり欧州から帰国後に、「**商法会議所**（実業家の意見を集約するために設立された任意の経済団体）」を静岡に設立、その後明治政府に招かれ大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わることとなります。

明治 6 年（1873 年）に大蔵省を辞した後、彼は一民間経済人として活動します。そのスタートは「第一国立銀行（現みずほ銀行）」の総監役（後に頭取）でした。

渋沢は第一国立銀行を拠点に、株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、また、「**道徳経済合一説**」を説き続け、生涯に約 500 もの企業の設立に関わったといわれています。

また文化や教育の面にも目を向け、**帝国劇場、日本放送協会、共同通信社、一橋大学、東京経済大学、東京女学館、日本女子大学**などの設立などにも関わりました。

これらのように、渋沢は教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、多くの人々に惜しまれながら昭和 6 年（1931 年）11 月 11 日、91 歳の生涯を閉じました。

これだけの功績を残した渋沢の思想とは？

この功績だけを見ると、結果を出すためには手段を選ばない、冷酷なやり手のビジネスマン？というイメージを持ってしまいそうですが、実は真逆の思想の持ち主でした。

彼が説き続けたのは先述の「**道徳経済合一説**」です。分かりやすく説明すれば、

『商売の本質は利益を追及することだが、道徳心がその根底に備わっていなければいけない。真の富とは道徳によるものでないと長続きしない。』

ということです。彼は道徳を論語、経済を算盤と言い換え、**「論語と算盤を一致させることが重要だ」**と説きました。

論語の中で孔子は、**「多くの人々に恩恵を施して、彼らを救うこと（博施済衆（はくしさいしゅう））ができたら、それは仁どころではない、聖人といってよい」**と語っていますが、渋沢は論語のこの箇所こそ「最も重要な点だ」と言ったそうです。「博施済衆」は言い換えれば「公益の追求」。渋沢の思想の核心はここにあります。

その思想のもと、一つの分野の会社設立に留まらず、様々な分野の会社設立に携わり、全ての人が暮らしやすい日本を作り上げるため、日々奔走したのです。渋沢は生前、

「お金は仕事の残りかすみたいなものだ。かすばっかりためていても仕方がない」

と言っていたそうです。なので、これだけやり手だったのに「渋沢財閥」はないのです。論語の

教えに従い、自分一人が産業（お金）を独占するのではなく、誰もが豊かさを手に入れられる、自由な競争がある社会を構築すべきだと考えたのです。

※渋沢栄一の著書「論語と算盤」の中で、三菱グループの創業者、岩崎弥太郎と料亭で大げんかをしたという記述があります。岩崎は「**君と僕が組めば、日本を思い通り操れる。私と手を組まないか**」と誘ったのに対し、渋沢は「**そんな利己的な考えには賛同できない！！**」と腹を立て、その場を立ち去ったらしいのです。日本の経済界を動かしていた二人ですが、考え方の違いが良く分かるエピソードです。

教育も「論語と算盤」に同じ

渋沢は自ら大学の校長に就任するなど、教育にも思うことがあったようです。

今の教育は知識を身につけることを重視した結果、すでに小学校の時代から多くの学科を学び、さらに中学や大学に進んでますますたくさんの知識を積むようになった。ところが精神を磨くことをなおざりにして、心の学問に力を尽くさないから、精神の面で青年たちに問題が出るようになってしまった。

そもそも現代の青年は、学問を修める目的を間違っている。

今の青年たちは、ただ学問のための学問をしている。初めから「これだ」という目的がなく、何となく学問をした結果、実際に社会に出てから、「自分は何のために学問してきたのだろう」というような疑問に襲われる青年が少なくない。　　（論語と算盤より抜粋）

これは大正時代に渋沢が書いた文章ですが、まさに今の時代にも言えることです。

学生の仕事は勉強することです。そう考えると学生の間も「論語と算盤」、すなわち『**道徳をしっかり学び、自分のことだけ考えるのではなく、周りの人のことも考えられる人間でないと、いくら勉強をして成績が良くても、将来社会に出てから必要とされる人間になれない**』ということが言えるのです。

今は「道徳観」のある人間が求められています

昨年に小学校、今年に中学校が新しい学習指導要領に変わりました。
今回のテーマは『**生きる力　～学びのその先へ～　**』となっており、その三本柱が以下です。

①知識及び技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性

この中でも、個人的には特に③が重要だと感じています。

数年前に文科省の初等中等教育局長が明示した、「**これからの時代に日本国が育成すべ き、理想とされる人物像**」には、こう書かれています。

◆ 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

◆ **自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心**

最近の小・中学生を見ていると特に 2 個目の項目の「**他人を思いやる心や感動する心**」の部分でかなり個人差があるように感じます。

例えば普段の授業中でも・・

◆低学年の子が机から色鉛筆をガッチャ～ンと落としてしまった時、離れた席に座っていても、パッと立ち上がって一緒に拾ってあげる子もいれば、真横に座っているのに知らんぷりで（気づいているけど）黙々と自分のことをしている子もいる。

◆先生が離れたところにいる生徒に何か渡そうとした時に、丸つけに向かおうとしてちょうど立ち上がった生徒が「私が渡してあげるわ」と言って代わりに渡してくれる。

◆感動するような話を見たり聞いたりした時に「へぇ！すごいな～そうなんだ」と目を輝かせ感動する子もいれば、「ふ～ん。別に自分には関係ないし」と寂しい反応の子も。

なにも常に周りに気を使って、自分のことは後回しで人のために何かをしなさい・・とまでは言うつもりはありませんが、**他人事を自分事に捉えられる子は自分の身の回りで起きている物事を全て自分の経験にできるので、どんどん成長できます。**

しかし他人事は他人事、自分は自分のことだけしてればいいやという考え（視点）では、自分が経験したことだけが自分の経験値なので、他人事を自分事に捉えられる子と比べると、経験値の差が年々広がっていくのです。

ある年の東京大学の入学式の祝辞で、元教授の上野千鶴子さんが

『あなた方を待ち受けているのは、これまでのセオリーが当てはまらない、予測不可能な未知の世界です。これまであなた方は正解のある知を求めてきました。これからあなた方を待っているのは、正解のない問いに満ちた世界です。

あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないでください。恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれない人々を貶めるためにではなく、そういう人々を助けるために使ってください』（祝辞より抜粋）

と話されたのがメディアで取り上げられ、話題になりました。

こうして見てみると、大正時代に渋沢が言っていることと、現代の教育現場で求められていること・言われていることが全く一緒だと分かります。時代が変わり、予測不可能な未知の世界になったとしても、**人として必要な道徳は不変**なのです。

渋沢栄一の説いてきた「**論語**と**算盤**」は言わば「**ブレーキ**」と「**アクセル**」です。

社会で仕事をする上で必要になる**知識や技能、思考力や判断力（＝算盤）はアクセル**ですが、それをコントロールする**ブレーキは、自分中心ではなく、人のことも思いやれる道徳観（＝論語）**、その両方のバランスが良くないと社会で活躍できないし、継続して利益を得られるようになりません。

結局どれだけ知識や思考力があり、AI が発達した便利な時代になっても、それを操る人にそれを操るだけの技量がないと、逆に操られ暴走してしまうのです。

ご存知の通り、育脳寺子屋の授業では**論語と算盤**に取り組んでいます。これはまさに、育脳寺子屋の理念が渋沢栄一の考えと一緒だからです。

勉強ができることも大事ですが、それ以上にしっかりした道徳観を持って「アクセル」と「ブレーキ」のバランスの取れた行動ができる、そんな社会で活躍できる子を育てたいと思います。

京大教育研究会 TEL0774-32-1917
育脳寺子屋宇治黄檗教室 TEL0774-32-1059

社会で求められている人はどんな人？

みなさんは、社会はどんな人間を求めていると思いますか？「いつもテストの点数がいい人」とか、「成績優秀な人」というわけではないのですよ。

あなたは「心の学問」に力を尽くしていますか？

2024年から、1万円札の肖像が福沢諭吉から渋沢栄一に変わります。
彼は「日本の資本主義の父」と言われており、500以上の会社を作り、今の日本の土台を作った人なのです。そんな彼はこう言っています。

『今の青年たちはただ学問のための学問をしている。
もっと心の学問に力を尽くさないといけない。』

いくら勉強を頑張って社会で活躍できるほどの力を持っていたとしても、自分のことばかりを考え、周りの人のことを考えられないような人間だと社会では必要とされないし、活躍もできないということなのです。
（ちなみに彼は『論語』を読んで道徳心の勉強をしたそうです）

みなさんは学生なので勉強を頑張ることは当然ですが、自分さえ良ければいいという考えではなく、困っている人がいたら助けてあげられるような優しい心を持ち、**『心の学問』**にも励んで下さいね。

偉人の名言

「今の青年たちは、ただ学問のための学問をしている。
もっと心の学問に力を尽くさければいけない。」

渋沢 栄一　～『日本の資本主義の父』と言われた実業家～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。